

緑の相談所だより

{ 2.3月号 …1993.1.31…発行 } 編集 旭川市緑の相談所

日ざしも日毎に強くなり、春に一步一步近づいてまいりましたね。
 花や植物の手入れがわからない時ご相談をお受けしております。直接来所
 されても電話でも結構です。また、季節に適した植物を扱った講習会も開い
 ています。一度参加なさってみてはいかがでしょうか。
 お問い合わせは・・・電話 65-5553

※※※※※※※※※※

講習会のご案内

※※※※※※※※※※

◇庭木類の 生育にむけての準備

◇サギ草とタイワントキソウの 植え方、育て方

日時 平成5年3月14日(日)
午後1～3時

日時 平成5年3月21日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
小島博昭

講師 旭川市緑の相談所相談員
村田正一

寒さもゆるみ始め、芽が動き出す季節
の庭仕事について行います。

☆サギソウの球根一口5球セットを
当日実費でおわけいたします。

- ◎庭の整理(冬囲いの取り外しを含めて)
- ◎庭木類の春の防除
- ◎剪定・その他

☆自分で植える方は水苔、浅鉢(4号くらい)をお持ちください。
 なお当相談所にもあります。

定員 50名(いずれも)
 参加料 無料
 お申し込み・お問い合わせ
 旭川市緑の相談所
 神楽岡公園内上川神社横
 ☎ 65-5553



庭木類の休眠と寒さの害

庭木類は今が休眠期。

なにも問題がないように思えますが実際の生育の中身は種々様々です。

この休眠の状態が最低気温を記録する2月上、中旬の気温に大きく影響されます。

◎庭木類にとって休眠は大切なもの

庭木類にとっての休眠は越冬のための通過点ではなく大切な生理的役割をはたしています。たとえば休眠を早くむかえたものと遅くむかえたものでは、早く休眠に入ったものの方が耐凍性（寒さに対する抵抗力）が高いといわれています。

早く、ゆっくりと、良い状態で休眠させることは、寒冷地で生育、管理しようとする庭木類にとっては絶対条件となります。

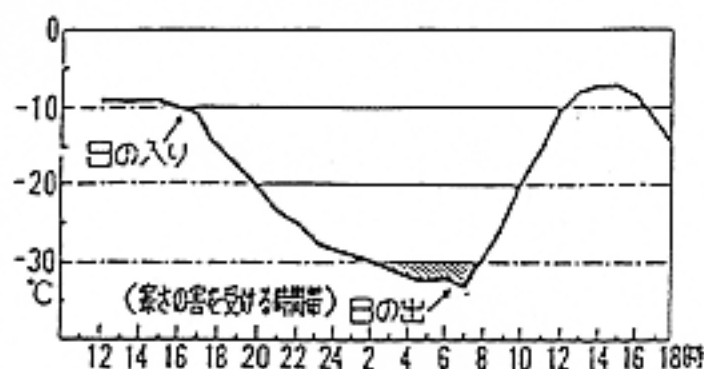
◎寒さのピーク

寒冷地での寒さのピークは2月上旬といわれ、この時期に雪の上に出ている部分が寒さの害にあうことがあります。

マイナス15℃以下に下がった日の朝日のあたる時間帯が最低温度を記録し、寒さの害にあう時間帯となります。日光のあたる側の細胞の表面あるいは細胞内まで被害にあうことがあります。これが寒さの害（凍害）です。

気温の一日の変化を図にあらわすと次図のとおりです。

気温の時間変化



◎休眠と寒さの害

イチイやツツジ、シャクナゲ類のように庭木類として一般に通用しているものであっても、病虫害により夏の生育が不良でようやく生活している状態であったり、植えこみ、移植の時期が適期でなかったり、剪定の時期が適期でなかったり、剪定が強すぎたり、あるいは秋に窒素分をやりすぎたりなどのような生活サイクルをくずすようなことをすると、

休眠に入る時期がおくれ寒さにたいする抵抗力が弱くなり、寒さの害にあう結果にもなになります。

◎寒さの害の対策

冬囲いの対策は勿論のことですが、一番大切なことは生育期の管理ですので移植、剪定、肥料やり、病虫害の防除等は適切におこない、自生種以外のものでも外での越冬に問題のあるものは、外ムク等で越冬させることが大切ですが、今の時期に出来ることは防風網による囲いぐらいですので春雪どけが始まったら早急に手当てすることが大切です。

2月上旬、中旬はまだ厳しい寒さが続きますが、下旬から3月ともなると陽光の明るさが次第に増し日も長くなってきます。それにつれて日当たりのいい所にある植物は生気を回復しはじめ、色つやがよくなって新芽が動き始めたりします。

※ 日照

冬の間部屋の奥まで射していた日光も、次第に入る長さが短くなってきます。回復を早めるためになるべく日によく当たるよう置き場所に気をつけましょう。ただし、強い光線に弱いコショウラン、セントポーリヤ、クンシラン、幸福の木などは日焼けすることがありますから、レースのカーテン越しくらいの日光に当てるようにします。

◎ 水やり

寒い間は水を控えるというのが原則ですが、水をやるときは鉢の底から流れ出るくらいたっぷりと与えます。控え目ということで少し与えるだけでは鉢の表面だけが湿り、中から底はバサバサに乾き根は乾燥で枯死してしまいます。そのために葉が黄色くなって落ちてしまいます。

水やりを控えるというのは、鉢土が乾いている時間を長くするという事です。土の表面が乾いてもう1～2日あるいは3～4日待ってからたっぷり与えるのです。

ぎゃくに、鉢土の表面が乾かないうちに始終水やりをしますと根が腐れて葉を落とします。乾いてからたっぷり与えてください。

◎ 肥料

元気を回復し、新芽や新葉が伸びているものには1000倍の液肥を週1回施してやりましょう。まだ生長を止めているものには施さないでおきます。一鉢ずつ様子を見ながら判断しましょう。室内ではもやし気味になりますから、窒素分が少なく、磷酸、カリ分の多い肥料を施すと締まって育ちます。タバコの灰にはカリ分を多く含んでいるので、月に1～2回、小鉢なら小さじで1杯、大きめの鉢なら2杯くらい表面に置くと固くがっしりと育ちます。

シクラメン、プリムラ、ベゴニヤなどのようにつぎつぎと花を上げているものには、週1回1000倍の液肥を施すと休まずに花を咲かせます。

♣ 種蒔き

草花や野菜などの種蒔きが室内でできます。種蒔き用の「ビートパン」を園芸店で求めて蒔くといいでしょう。次のことに注意してください。

- ①種は多く蒔くと苗が込み、後の生長が悪くなるので決して多く蒔き過ぎないこと。
- ②極く細かな種は蒔いたままで土をかけない。ゴマ粒以上の種はかくれる程度にパーミキュライトをかぶせる。
- ③温度は20度～25度保つこと。種類によって1週間から2週間くらいの間に発芽する。発芽したらもやしにならないよう明るい所に置く。
- ④発芽まで乾かさないうたえず湿り気を与えておく。細かい種は水で流れないように霧吹きでしずかに与えること。発芽したら湿り過ぎでは腐るので注意する。
- ⑤細かい種の場合は本葉が3～4枚、大きい種の場合は2～3枚になったらピンセットか箸で土ごとつまみあげ、1本ずつ3センチくらいの間隔に移植する。移植には浅鉢か発泡スチロールの箱の底に穴をいくつもあけたものを用いるとよい。移植用の用土は園芸店で培養土を求めるとよい。